

3 教育・子育て

基本施策13 学校教育

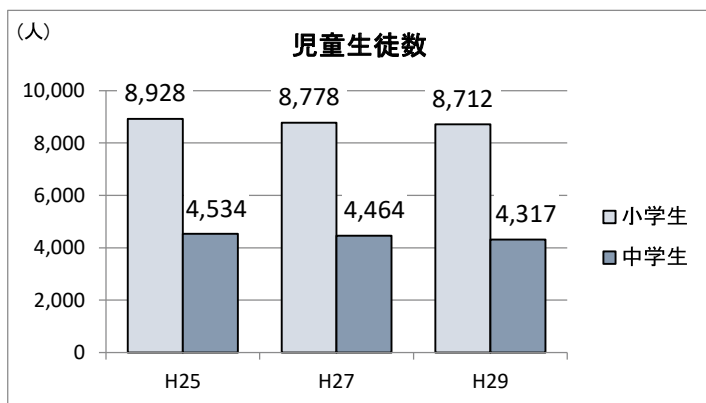
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



◆現況と課題

- 令和2(2020)年度から小学校、令和3(2021)年度から中学校で新しい学習指導要領が完全実施されることになり、道德の教科化や英語教育、プログラミング教育の実施など、これからの時代に必要となる資質能力を育む教育が求められています。
- 「学校が楽しいと思うこどもの割合」は平成26(2014)年度の90.8%から平成30(2018)年度の91.2%へと上昇しています。また、児童の授業理解度(小学国語)は平成26(2014)年度の79.1%から平成30(2018)年度の79.4%へと上昇し、生徒の授業理解度(中学国語)は平成26(2014)年度の71.3%から平成30(2018)年度の72.2%へと上昇しています。今後も楽しく通い、理解しやすい授業を推進することが重要です。
- 教員が対応を求められる課題は多岐にわたります。児童生徒により良い教育を行うために教員の資質能力の向上と多忙化解消に向けた取組が必要です。
- 小牧市の千人あたりのいじめの認知件数は、平成30(2018)年度、小学校56.7件(全国66.0件)、中学校114.1件(全国29.8件)、全体75.3件(全国40.9件、愛知県32.1件)となっています。いじめは軽微な段階から確実に認知し、迅速に適切な対応を講ずることが重要であり、今後も相談体制の強化などを通じていじめの早期発見につなげる必要があります。
- いじめ、不登校、非行などへの対応、また、特別支援教育や貧困問題、日本語指導が必要な児童生徒など新たな教育課題への対応が必要です。
- 食物アレルギーを持つこどもが増加傾向にあるため、学校給食では、乳と卵に係るアレルギー対応を確実に実施するとともに、基本的な衛生管理を徹底する必要があります。また、食育によりこどもの頃から望ましい食生活を確立する必要があります。

【参考データ】



【関連条例・関連計画】

- ・小牧市教育大綱
- ・小牧市教育振興基本計画
- ・小牧市学校教育ICT推進計画

◆基本施策の目的及び状態指標

【基本施策の目的：目指すまちの姿】

小牧市の未来を担うこどもたちの温かな心の源となる「愛」と、自らを高める意志の源となる「夢」、社会をたくましく生き抜くことができる「生きる力」を育てるまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
こどもが学校に元気に通い、学校で楽しく過ごしていると思う保護者の割合	90.8%	↗
学校が楽しいと思うこどもの割合	91.2%	↗
給食が楽しと思うこどもの割合	83.7%	↗
不登校児童生徒数	393人	↘
小学校における千人あたりのいじめの認知件数	56.7件	—
中学校における千人あたりのいじめの認知件数	114.1件	—

◆基本施策の体系

基本施策	学校教育	展開方向1	児童生徒の学びや学校生活を充実します
		展開方向2	児童生徒や家庭への支援体制を強化します
		展開方向3	安全・安心な学校給食を提供します

◆展開方向1：児童生徒の学びや学校生活を充実します

【目標】

○すべての児童生徒にこれからの時代に必要となる資質能力を育む教育を進めます。

【手段】

○教員の指導力・授業力の向上を支援するため、新学習指導要領などにに基づき効果的な教職員研修を実施します。

○これまでの教育内容を維持するとともに、ICTを活用した学習活動や英語教育の充実に取り組みます。

○学校と地域が協働して児童生徒の豊かな学びと成長を支援します。

○心身ともに健康な状態で、誇りや情熱を失うことなく、児童生徒と向き合えるよう、教員の多忙化解消の取組みを進めます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
教職員研修への参加者数	－	↗
児童の授業理解度（県平均との差）	+1.3%	↗
生徒の授業理解度（県平均との差）	±0.0%	↗
ICTを効果的に活用して授業をしている教員の割合	74.9%	↗
ゲストティーチャー※による活動回数	100回	↗
勤務時間外の在校時間が月80時間を超過している教職員の割合	12.7%	↘

◆展開方向2：児童生徒や家庭への支援体制を強化します

【目標】

○支援が必要な児童生徒や家庭への支援を行います。

【手段】

○スクールソーシャルワーカー*や学校生活サポーター*などによる支援を強化します。

○日本語指導が必要な児童生徒を支援するため、語学相談員などによる支援を強化するとともに、市民活動団体との協働に取り組んでいきます。

○さまざまな困難を抱える児童生徒やその保護者を支援します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
スクールソーシャルワーカーの支援により、状況が改善した件数	15件	↗
語学相談員ひとりあたりの児童生徒数	50.7人	↘
不登校児童生徒のうち、登校できるようになった者及び良い変化があった者の割合	46.6%	↗
いじめの解消率(小学校)	78.0%	↗
いじめの解消率(中学校)	79.0%	↗

◆展開方向3：安全・安心な学校給食を提供します

【目標】

○すべての児童生徒に安全な学校給食を提供するとともに食育を推進します。

【手段】

○食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけさせます。

○衛生管理を徹底し、安全でおいしい学校給食を提供します。

○食物アレルギーへの適切な対応に努めるとともに、市民活動団体との協働に取り組んでいきます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
朝食を食べている児童生徒の割合	92.2%	↗
残食率	6.9%	↘
食物アレルギーによる事故件数	1件	↘

基本施策14 教育環境

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



◆現況と課題

- 学校施設は、昭和40～50年代に建設されたものが多く、全体的に老朽化が進んでおり、改修が必要な箇所が増加しているため、計画的な建替え・改修が必要です。
- 老朽化している学校施設の中で、特にトイレの改修、エアコンの設置を要望する意見が、児童生徒・保護者から多くあります。生活様式の変化の中で家庭、民間施設、公共施設などでの洋式トイレの設置率が高まっていることから、学校施設のトイレの洋式化率も高める必要があります。
- 児童生徒が最も多くの時間を過ごす普通教室へのエアコンの設置を優先したため、特別教室は一部の教室を除きエアコンが設置されていません。特別教室へのエアコンの設置を進める必要があります。
- 水俣条約^{*}により令和2(2020)年12月31日以降、水銀灯の製造・輸入が禁止されるため、小中学校25校のうち18校の体育館に残存する水銀灯をLED照明へ改修する必要があります。
- 毎年実施している通学路点検の際には、交通安全と防犯の両面での改善要望が出されるため、関係機関と連携し、計画的な安全対策を進める必要があります。
- ICT機器については、順次整備を進めてきており、国の「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画(平成30(2018)～令和4(2022)年度)」の水準を概ね満たしています。タブレットPCなどの学習者用コンピュータを効果的に活用していく必要があります。

【関連条例・関連計画】

- ・教育大綱
- ・小牧市教育振興基本計画
- ・小牧市学校教育ICT推進計画

◆基本施策の目的及び状態指標

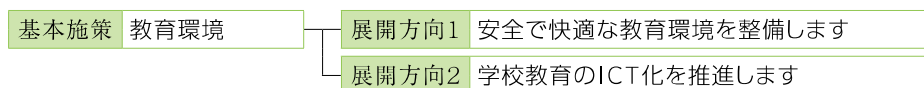
【基本施策の目的:目指すまちの姿】

こども達が、安全で安心して学習できる教育環境を整えたまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
学校内での事故件数	18件	↘
児童生徒の登下校中の交通事故件数	3件	↘

◆基本施策の体系



◆展開方向1：安全で快適な教育環境を整備します

【目標】

○こども達が学習に集中できるよう安全で快適な教育環境を整備します。

【手段】

- トイレの洋式化や老朽化した施設・設備などの改修、更新を計画的に進めます。
- 特別教室へのエアコン設置や体育館照明のLED化を計画的に進めます。
- 地域住民、学校、警察、道路管理者などと連携して通学路の安全確保を図ります。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
施設維持管理上の不備による児童生徒の事故件数	0件	→
トイレの洋式化率	45.0%	↗
特別教室のエアコン設置率	47.0%	↗
通学路の安全対策実施件数	11件	↗

◆展開方向2：学校教育のICT化を推進します

【目標】

○こども達が学習の理解度を高められるようICT化による学習環境を整備します。

【手段】

○タブレットPCなどの導入を計画的に進めます。

○校内LANの改修を計画的に進めます。

○デジタル教科書、各種デジタル教材などの教育ソフトウェア・コンテンツの充実を図ります。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
タブレットPCなどの学習者用コンピュータ1台あたりの児童生徒数	6.6人	↘

基本施策15 子育て支援

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



◆現況と課題

- 少子化によりこどもの数は減少しているものの、子育て施策への各家庭のニーズは多様化しています。それぞれのニーズに対応した適切な支援ができる体制を整備する必要があります。
- アンケート調査によると、「安心して子育てができるまちと思う」と回答した割合は、近年50%台で推移しています。地域で安心して子育てができる環境を提供することが必要です。
- 地域で身近に相談できる相手がいらないなど、地域とのつながりが希薄化している子育て家庭があります。地域ぐるみでこどもの成長を見守り、健やかな育ちを応援できる体制の整備が必要です。
- 小牧市の児童虐待の件数（要保護児童地域対策協議会*で取り上げた実件数）は、平成29（2017）年度は285件、平成30（2018）年度は250件でした。今後も、市役所、春日井児童相談センター、小牧警察署などの行政機関はもちろんのこと、近隣・知人など地域全体が協力・連携し、児童虐待の実態を逃すことなく見つけ出し、迅速かつ適切な対応をとることが重要です。
- 「少年の生活意識と行動」の実態調査報告書によると、「隣に住んでいる人をほとんど知らない」と答えるこどもがいるなど、地域におけるつながりの希薄さがみられることから、地域で気持ちの良いあいさつをかわすなど、地域ぐるみでこどもの健やかな育ちを応援できる体制を整えていく必要があります。

【関連条例・関連計画】

- ・小牧市地域こども子育て条例
- ・小牧市子ども子育て支援事業計画

◆基本施策の目的及び状態指標

序
章

第Ⅰ
章

第Ⅱ
章

第Ⅲ
章

第Ⅳ
章

第Ⅴ
章

資料
編

【基本施策の目的:目指すまちの姿】

子育てをしているだれもが、安心して子育てができる体制を整えるとともに、こどもが健やかに成長できるまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
小学生児童がいる母親の就業率	74.4%	↗
児童虐待の認知件数	250件	－
青少年の非行認知件数	809件	－

◆基本施策の体系

基本施策	子育て支援	展開方向1	子育て家庭を支援します
		展開方向2	地域の子育て・子育てを支援します
		展開方向3	健全な青少年を地域で育てます

◆展開方向1：子育て家庭を支援します

【目標】

- 放課後児童クラブの質を向上し、安定したサービスを提供します。
- 児童虐待をなくす取組みを進めます。
- ひとり親家庭のこどもが経済的負担を理由に進路の選択肢が制限されることのない支援体制を推進します。

【手段】

- 放課後児童支援員キャリアアップ研修を通じて、支援員の資質の向上を図ります。
- 児童虐待を未然に防止できるよう相談体制を充実します。
- ひとり親家庭等入学支援金給付制度*を活用して、希望者が大学などに進学しやすい環境を整えます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
放課後児童支援員キャリアアップ研修修了者数	29人	↗
放課後児童クラブの待機児童数	0人	→
児童虐待の解消率	76.0%	↗
ひとり親家庭のうち市の入学支援金により大学などに進学した割合	29.1%	↗

◆展開方向2：地域の子育て・子育てを支援します

【目標】

- 児童館、子育て世代包括支援センターの利用者数を増やします。
- 異年齢児童の交流や遊び体験を中心に子ども会活動の活性化を促進します。

【手段】

- 利用者のニーズにあった講座の開催や、利用者に寄り添う居心地の良い環境を提供します。
- 補助制度を活用して市子ども会連絡協議会*を支援します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
児童館・子育て世代包括支援センターの利用者数	531,773人	↗
市子ども会連絡協議会に加入している子ども会の数	36団体	↗

◆展開方向3：健全な青少年を地域で育てます

【目標】

- あいさつのできるこどもを、地域ぐるみで育てます。
- こどもの社会性を育てます。
- こどもの健全育成に関わる人を増やします。

【手段】

- 青少年健全育成市民会議^{*}や校区健全育成会^{*}と連携をとり、あいさつ運動を中心とした取組みを推進します。
- 同世代のこどもや地域の大人と交流できるような地域活動の場を提供します。
- 「駒来塾」学習支援員・サポーターのやりがいなどを効果的にPRします。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
地域の大人とあいさつをしている中学生の割合	85.9%	↗
中学生の地域活動への参加率	89.0% (平成29年度)	↗
駒来塾学習支援員・サポーターの登録者数	51人	↗

基本施策16 幼児教育・保育

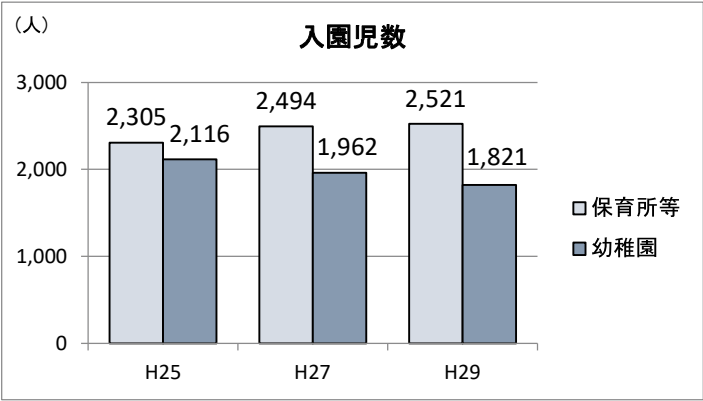
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



◆現況と課題

- 小牧市の待機児童数は、平成31(2019)年4月1日現在で0人になりましたが、令和元(2019)年10月から開始された幼児教育・保育の無償化により、さらなる保育などの需要拡大も想定されることから、引き続き待機児童の解消に向けた取組みを進めていく必要があります。特に、保育施設の所在地に偏りがあり、保育需要とのミスマッチが発生しているため、民間事業者による保育所などの整備については、可能な限り保育需要を考慮し選定する必要があります。
- 小牧市では、ライフスタイルの変化や多様化するニーズに対応するため、公立保育園の民営化や認定こども園^{*}化、小規模保育所^{*}の整備などを進めてきました。今後も多様なニーズに対応できる体制を整備していく必要があります。
- 保育士が慢性的に不足しており、休暇取得も踏まえた勤務ローテーションを組めるレベルまで保育士を確保する必要があります。
- 民間事業者による保育施設が増加しているため、私立保育園などにも各種研修や講座などの情報を定期的に伝達するとともに、積極的な参加を呼びかけることで、市内全体の保育士の質の向上に取り組む必要があります。
- 保育施設の老朽化が進行しているため、計画的に適切な維持管理を行うことで、安全・安心な保育環境を確保する必要があります。
- 保育園によっては、保育室が飽和状態になっていることから、保育室、遊戯室など、本来の部屋の目的に応じ使い分け、安全・安心な保育環境を整える必要があります。

【参考データ】



【関連条例・関連計画】

- ・小牧市地域こども子育て条例
- ・小牧市子ども・子育て支援事業計画

◆基本施策の目的及び状態指標

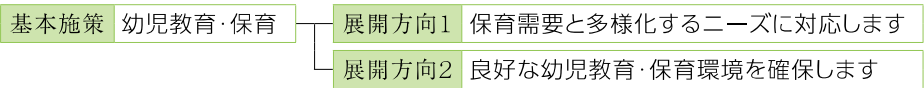
【基本施策の目的：目指すまちの姿】

多様化・低年齢化している幼児教育・保育ニーズに対応し、保護者が安心して子どもを預けることのできるまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
合計特殊出生率*	1.44 (平成29年)	↗
未就学児がいる母親の就業率	56.4%	↗

◆基本施策の体系



◆展開方向1：保育需要と多様化するニーズに対応します

【目標】

- 待機児童を解消します。
- 多様なニーズに対応できる保育施設を整備します。

【手段】

- 公立保育園の民営化や認定こども園化などにより、延長保育や休日保育をはじめとする多様な保育需要に対応します。
- 発達障がいなど特別な支援が必要な保育ニーズに適切に対応します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
待機児童数	0人 (平成31年4月1日時点)	→
延長保育で預かったこどもの数	2,848人	↗
休日保育で預かったこどもの数	181人	↗

◆展開方向2：良好な幼児教育・保育環境を確保します

【目標】

- 保育施策の質を向上します。
- 保育園の環境を整備し、長寿命化を図ります。

【手段】

- 各種研修や園自らが実施する自己評価を通じて、保育士・幼稚園教諭の能力と保育の質の向上に取り組みます。
- 老朽化が進行する施設を計画的に整備し、安全・安心な保育環境の提供と園児が楽しく過ごせる保育を実施します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
研修参加者数	1,286人	↗
各種保育施設が自ら実施する保育の質の向上のための自己評価の1園あたり年間実施回数	—	↗
計画的な営繕工事(防水改修)の進捗率	15.0%	↗

基本施策17 男女共同参画

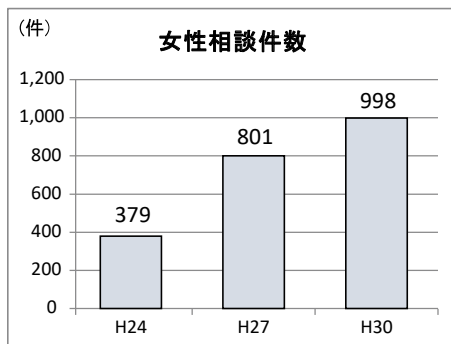
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



◆現況と課題

- 男女共同参画社会の実現に向け、国では平成11(1999)年の男女共同参画社会基本法の制定以降、これまでにさまざまな取組みを進め、現在は平成27(2015)年12月に策定した「第4次男女共同参画基本計画」を推進しています。
- 小牧市では、男女が性別に関わらず対等な立場で、自らの個性を発揮し、多様な生き方や価値観を認め合える社会を実現するために、平成15(2003)年4月に「小牧市男女共同参画条例」を施行、平成27(2015)年3月には、「第3次小牧市男女共同参画基本計画 ハーモニーⅢ」を策定し全庁的に推進しています。
- 職場や政治の場、社会通念・慣習やしきたりなどで6割以上の市民が、「男性が優遇されている」と感じています。また、小牧市における審議会等附属機関への女性登用率は3割未満であり、自治会やPTAなど地域社会における政策・方針決定過程への女性の参画率も伸び悩んでいます。「男性は仕事、女性は家庭」といった固定的な性別による役割分担意識を解消するためにも、地域で相互協力して活躍できる環境づくりが必要です。
- 出産や子育て、介護などの家庭の事情で仕事をやめざるを得ない女性が依然として多いため、ワーク・ライフ・バランス^{*}の浸透が必要です。男性中心型の働き方を見直し、多様で柔軟な働き方ができる環境づくりなどを進めるとともに、若年世代に対して、男女共同参画の視点を持ち一人ひとりが主体的に進路を選択できるようキャリアプラン教育を推進する必要があります。

【参考データ】



【関連条例・関連計画】

- ・小牧市男女共同参画基本条例
- ・第3次小牧市男女共同参画基本計画 ハーモニーⅢ
- ・小牧市女性活躍推進計画

◆基本施策の目的及び状態指標

【基本施策の目的：目指すまちの姿】

あらゆる分野へ男女がとにも対等な立場で協力・参画し、個性と能力を発揮するとともに、多様な生き方や考え方、価値観を認め合うまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
働いている女性(20～50歳代)の割合	67.9% (平成27年度)	↗
固定的な性別役割分担に反対する男性の割合	26.8% (平成26年度)	↗

◆基本施策の体系

基本施策	男女共同参画	展開方向1	男女共同参画に向けた意識改革を推進します
		展開方向2	あらゆる分野における女性の活躍を推進します
		展開方向3	女性が安心して暮らせる社会を構築します

◆展開方向1：男女共同参画に向けた意識改革を推進します

【目標】

- 家庭や地域における男女共同参画への理解を促進します。
- 若年世代に対して男女共同参画の意識を啓発します。

【手段】

- 家庭や地域において男女共同参画を推進するため、男女共同参画に関する講座内容の充実を図るとともに、地域への普及員配置の推進と活動支援などを行います。
- 小中学校などの学校教育の場に男女共同参画について学ぶ機会を提供し、児童生徒が将来に向けた自己形成ができるよう取り組みます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
男女共同参画に関する講座・講演の参加者数	1,616人	↗
男女共同参画に関する講座・講演の実施中学校数	0校	↗

◆展開方向2：あらゆる分野における女性の活躍を推進します

【目標】

- ワーク・ライフ・バランスの普及と理解を促進します。
- 市が設置する審議会などへ女性委員の登用を推進します。

【手段】

- 企業や地域における女性活躍を支援するとともにワーク・ライフ・バランスの普及を推進します。
- 育児・介護休業制度や保育・介護サービスについての情報提供をするとともに、女性が社会で活躍していくための環境の整備を支援します。
- 女性のネットワーク形成を推進するため、女性団体の活動を支援します。
- 審議会などへの女性委員を推薦するため、女性人材バンク^{*}への登録を促進します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
ファミリーフレンドリー企業 [*] の登録数	10件	↗
審議会などへの女性委員の登用率	28.0%	↗

◆展開方向3：女性が安心して暮らせる社会を構築します

【目標】

- 性別により差別されことなく、人権が尊重され、安心して暮らせる社会づくりに取り組みます。

【手段】

- 女性が抱える悩み、トラブルの発見や解決に向けて地域や市民活動団体と協力した相談体制を整備します。
- セクハラ、DV、性犯罪などの被害者に対する支援体制を整備します。
- 多様な性のあり方に関する理解を深め、差別意識の解消に向けて取り組みます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
女性相談の窓口を知っている女性の割合	41.2%	↗